



亀山市保幼認小連携「かけはし期」大事にしたい 3つの「つなぐ」

2025.4.1
亀山市教育委員会

人をつなぐ

●子ども同士をつなぐには？

【児童数少】

- ① 1学期初期は、小学生が園に出向き、園で活動する。

【児童数多】

- ① 1学期初期は、小集団での訪問。
小学生が生活科や遠足で園周囲を通る。

- ② 2学期は、小学生が保育園児を学校に招き活動する。

○見学・学校探検・各教科に関連した「○ランド」「□まつり」「△あそび」
○「おどり」「うた」「作品」「読み聞かせ」「げきあそび」の紹介

- ③ 3学期の交流は、2月までに給食見学や「新一年生を迎える会」

○就学や新学年への期待、残りの学年や園生活への意欲を高める。
○園児の複数回来校は、緊張がほぐれ、学校のイメージを持たせることができる。

●直接訪問できない場合、活動は？

- ① 相手意識を持たせた作品交流、ICTの活用、行事・交流の前後のメッセージカード。

組織をつなぐ

●今も十分連携ができていて、保育園から小学校へのさらなる円滑な接続のためにそれぞれが行っている取組を具体的に交流していくには？

- ① かけはしWEEKの設定・実施

○小学校フリー参観に園の先生を招く、小学校の授業がない期間に園を訪問する。
○各々の場での関わり方や支援を見て学び、その後の意見交換の場で理解を深める。

学びをつなぐ

●年度初めに1年生の参観を位置づけて、1年生のスタートカリキュラムについて話し合うには？

- ① 5才児アプローチカリキュラムの実施

○1年生スタートカリキュラムの実施

- ② セルフチェック表の活用 4月重点項目→1学期

- ③ 保幼認小連携担当者会議・ブロック別の会議を年2回程実施

○1学期 第1回ブロック別交流活動の計画作成

○3学期 第2回交流活動・かけはしWEEK・カリキュラム実施の振り返りと今後の展望

●どのような活動をどのように行うべきか？

- ① 子どもどうしの関わりあいがたくさんある活動

○個別の活動時間、自己決定・試行錯誤・(お店・縁日・工作・探検・遊び)
○屋外で行う行事(散歩、外遊び、遠足、運動会、水遊び、凧あげ、栽培)
○無自覚な学び・自己決定の場、環境を作る。
○安心・自信・意欲、ことばを育てる。

◎今後も、保幼認小の教育内容の方法と教育内容を展開・積み上げ、共通の課題を話しあう機会を持つ(各校各園・ブロック・市全体で)。

◎遊びから学びへ、教科においても接続カリキュラムの充実・推進を図る。